

中学校第1学年 道徳 学習指導案

期 日 平成23年10月12日(水) 第5校時
場 所 水俣市立水俣第二中学校1年1組教室
指導者 教諭 池田 雄一郎

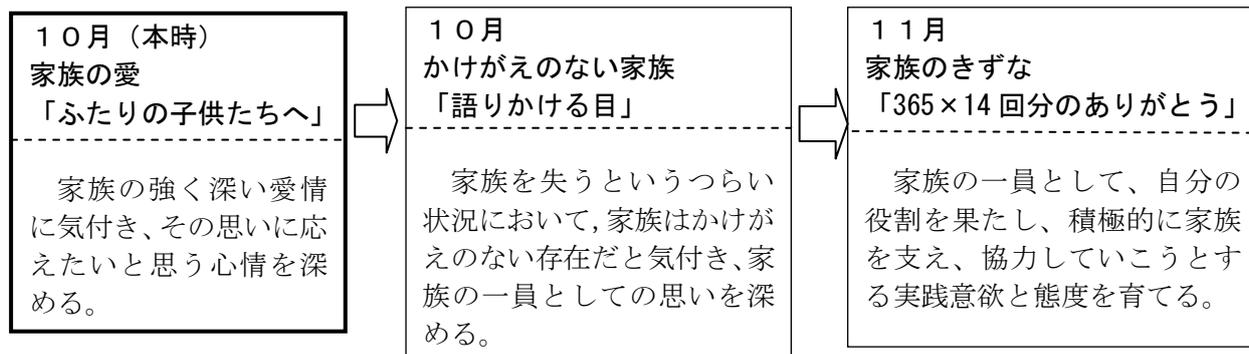
- 1 主題名 家族の愛〔内容項目4－(6) 家族愛〕
- 2 資料名 ふたりの子供たちへ(出典 暁教育図書「自分を見つめる」)
- 3 主題について

(1) ねらいとする内容項目について

本主題は、父母や祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚を持って充実した家庭生活を築くことをねらいとしている。人間は、受け継がれた生命の流れの中で生きており、自分が在るのは祖父母や父母が在り、そのかけがえのない子どもとして深い愛情を持って育てられたからである。そのため、自分を育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることは大切なことである。

中学生のこの時期は、自我意識が強くなり、父母や祖父母のちょっとした忠告などに対し反抗的な気持ちになりがちである。また、家族の存在を当たり前のこととしてとらえ、ありがたさを感じる機会が少なくなっている。この時期に、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考えさせることは必要である。家族の一員としての自覚を持って積極的に協力していくことが、自分の課題であることに気づかせたいと考え本主題を設定した。

(2) 系統観



(3) 実態観

内容項目4－(6)に関する結果は以下の通りである。

(N=26 10月実施)

質問事項	よくある	たまにある	あまりない	全くない
家族を大切にし、自分も家族の一員として責任を果たすことは大切だと感じる。	8	9	5	4
家族の一員としての自覚をもち、家の仕事など積極的にしている。	4	15	9	0
家族(親)に対して感謝し、言葉で「ありがとう」という気持ちを伝えている。	16	5	2	3
団らんを避けたり、反抗的な態度をとったりすることがある。	1	7	11	7
家族と会話することが嫌だと感じたり、一人でいたいと思ったりする。	1	5	9	11

家族を大切にし、役割を果たすことを大切と感じる生徒が比較的に多いが、意識の差はみられ、家の仕事に協力しようとする態度にも差がある。しかし、多くの生徒が、家族に対して感謝の気持ちを持っていると答えている。一方、会話を避けたいと思うなど反抗的な気持ちを持っている生徒も見られる。

また、「あなたにとって、家族はどんな存在ですか」という質問に対して、すべての生徒が「大切な存在」「かけがえのない存在」と答え、その理由として「相談にのってくれる」「自分のことを考えてくれる」「自分の産んで育ててくれた」などを挙げている。「一人でも欠けると家族ではない」など家族全員を大切に考える生徒も数名見られた。その一方で、「ものを買ってくれる」「大人になるまで大切な存在」という回答も見られ、家族という存在が当たり前であるという意識を持っている生徒もいる。

このような実態を踏まえ、生徒一人一人に家族について自分なりに見つめさせ、その意義について深く考えさせる機会を持つことは大切だと考える。

(4) 資料について

資料「ふたりの子供たちへ」は、医師である井村和清氏が、死の直前までつづった手記の中の文章である。井村医師は、膝にできた悪性腫瘍の転移を防ぐために右足を切断したが、腫瘍は肺に転移しており、必死の闘病の末、31歳で逝去した。その死後、井村医師が書き残した手記は、「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」という1冊の書籍となり、ドラマ化・映画化もされている。本資料は、残された2人の子どもたちの幸せを願う祈りの手紙である。手紙には子どもたちの母親や祖父母を敬愛し、思う気持ちもあふれている。家族と家族の在り方、絆について改めて考えさせられる資料である。

(5) 指導観

- 導入においては、事前に家族についてウェビングマップ書かせておき、それをもとに意見を出し合うことで、各自が持つ家族への思いを出し合い、自分の今の心を見つめられるようにする。
- 展開前半では、腫瘍の転移を知ったときの作者の苦しみや悲しみに触れ、人間理解をおさえる発問をする。まず、2人組の対話を行い友達の考えに触れ、その後、異なる考えにも触れさせるために全体で意見交換する。
- 自分とのかかわりで考えさせる手立てとして、作者は子供たちにいつ、どのような場面で伝えようと思っていたか具体的な場面とその時の気持ちを一緒に考えさせる。
- ワークシートを工夫し、具体的な場面の選択肢を提示し、各自が自分に置き換えて選択することで、自分の考えを深めることができるようにする。また、ワークシートに書いた自分の考えを基に、友達との意見交換をする場を設け、異なった考えに触れ自分の考えを深めることができるようにする。
- 展開後半では、一行詩の作品例を示し、表現することへの興味・関心を高める。自分の家族への思いを短い言葉で表現することで、自分なりに価値を発展させていくことの思いや課題を培うようにする。
- 終末は、教師が書いた一行詩を示し、親の子供への思いについての説話をするすることで、各自の思いを深めさせる。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から

- 内容項目4-(6)における道徳的心情を育てることを本時のねらいとして設定する。
- 評価の観点として「道徳的価値の理解」「自分とのかかわり」「自己実現への意志」を設定し、それぞれの観点に沿って具体的な生徒の姿を想定した評価規準を設定し生徒の変容を把握できるようにする。本時では、「自分とのかかわり」の観点を重視する。
- 生徒が自分の考えを基に異なる考え方に触れ考えを深める言語活動として、作者が自分の子供にどんな思いを伝えたいかをワークシートに書く活動と自分の家族への思いを一行詩に表現する活動を設定し、評価場面とする。
- 評価場面では、生徒が自分の思いや考えを主体的に表現するような手だてや言葉かけを積極的に行いできるだけ個に応じた指導と評価を行うようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

家族の強く深い愛情に気付き、その思いに応えたいと思う心情を深める。

(2) 評価規準

観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
道徳的価値の理解	○作者の子どもへの思いと作者を支えた家族の思いに気付き、家族の愛情の深さについて考えている。	・学習の様子 ・作品（一行詩） ・学習後の自己評価
自分とのかかわり	○作者の子どもに対する思いを想像して書く活動を通して、自分の家族に対する思いを表現している。	・ワークシート ・学習の様子
自己実現への意志	○家族について自分なりに考え、家族に対する思いを一行詩に表現している。	・作品（一行詩） ・学習後の感想

